



10月 かぜのたより

令和5年10月2日（月）
尚徳福祉会 井荻保育園

9月下旬、久しぶりに公園へお散歩に行ったかぜ組さん。いつの間にか季節は変わり、「わぁ、ドングリがいっぱい落ちている!」と興奮気味に拾い集めていました。運動会への取り組みにも積極的になり、「こうしてーぼくらがーであったーきせきにー♪」と、パラバルーンで使用する歌を口ずさむ姿も見られるようになりました。

今月はそんな子どもたちの心待ちにしている運動会があります。ケガに気をつけながらも、自分自身の目当てに向かってやり抜く力や、友だちと協力してやり遂げる楽しさを、存分に味わえることができるよう、心がけていきたいと思えます。おうちの皆さんの応援、よろしくお願いいたします。

今月のわらい

- 友だちと協力し合ってやり遂げる楽しさや、みんなで表現する喜びを味わう。
- 友だちとの関わり合いの中で、自分の思いを言葉で伝えようとする。
- 秋の動植物を見つけたり触れたりしながら、遊びの中に取り入れて楽しもうとする。



運動会への取り組みで育まれる心と身体

◆大縄跳びでも自分なりの個性を発揮

「おやつが終わったら大縄跳びやりたい!」と意欲的な子どもたち。運動会では10回ずつ跳べることを目標にしていますが、片足跳びをししたりクルクル回転しながら跳んだり、自分で工夫しながら跳ぶようになりました。

◆「何回跳べたかな?」と数を数える喜び

10回に限らず、跳べるだけ大縄跳びをする時、みんなで数を数えます。ホールに掲示している【100まで数字】を指さしながら、「きょうは63回跳べたから、ここだね」と喜び合うなど、数への興味が高まっています。

◆「はみ出さないように塗らなきゃ」とコントロールする力

今年は手形ではなくクレヨンとマーカーで運動会のクラス旗を作り上げました。目安になる線に沿ってクレヨンを動かすには手指のコントロールが必要なのですが、みんな真剣な表情で取り組んでいました。好きな色で顔とハートマークを塗り込んで、個性溢れる旗が出来ました。

◆「こっちだよ」と、にじ組さんに声をかける心配り

リズム運動では4つの異年齢グループで【糸車】をやります。クラスごとに並んでいた子どもたちが「ロケット」「レーシングカー」「新幹線」「はやぶさ」という4つのグループに分かれるのです。その時、所属先をまだ覚えられずに戸惑うにじ組さんの手を引いて、優しく誘導する姿が見られました。お兄さんお姉さんとしての自覚が育まれているのを誇らしく感じました。

